

ナシ樹体ジョイント仕立て導入のポイント

～ 早期成園化、省力化できる樹形をいち早く完成させ、園地の若返りを図る～

本美善央（農業総合試験場園芸研究部常緑果樹研究室
前・農業総合試験場企画普及部広域指導室）

【平成27年11月16日掲載】

【要約】

ナシ樹体ジョイント仕立ての樹形を早期に完成させるには以下の点がポイントとなる。地力が強くない本県では、計画時に植栽間隔を1.5mと狭く設定する。育苗中はかん水、施肥、摘芯、防除を徹底する。ジョイント部に届かない樹は主枝を真上に立てて管理し、先端以外の新梢は約15cmで摘芯する。接ぎ木は繁忙期の4月上旬だけでなく6～7月にも実施することができ、他の作業との競合を避けることができる。

1 はじめに

神奈川県で開発された「ナシの樹体ジョイント仕立て」は、大苗を並木状に定植し、棚下で一定方向に伸ばした主枝を隣接樹と連結（ジョイント）し、勢力の揃った側枝を直角に配置した仕立て法である。この仕立て法の導入により、早期成園化と、管理作業の省力化・単純化が可能となる（図1）。

愛知県では、高樹齢化が進む園地の若返りを図るため、「ナシの樹体ジョイント仕立て」（神奈川県が平成24年に特許取得、同年愛知県果樹振興会が許諾契約を締結）の導入を推進している。平成26年までにジョイント仕立てに向け苗木が約5ha定植されたが、実際にジョイントできた面積は0.3haにとどまっている。



図1 ナシ樹体ジョイント仕立てのイメージ図

本技術の導入による2つのメリットを得るためには、苗木の生長を促進し早期に樹形を完成させる必要がある。ここでは、早期樹形完成のためのポイントについて紹介する。

2 導入計画 ～ 植栽間隔は狭めに設定～

開発県の土壌は肥沃な火山灰土であるが、愛知県は壤土、砂壤土が多い。そのため、1年間の育苗では、理想とする苗木長4m（植栽間隔が2mの場合）まで伸びない場合が多い。そこで、計画時に植栽間隔を1.5mと狭く設定し（隣接樹との連結距離が短くなる）、それに応じた数の苗木を準備する。

3 育苗中の管理 ～ かん水、施肥、枝梢管理、防除はとても大切～

苗木の新梢を早く伸ばすためには、春先からの定期的なかん水と施肥が不可欠である。特に、作業が集中する収穫期に入るとかん水を忘れがちになるため、かん水チューブを必

ず設置し、こまめなかん水により適正な土壤水分の維持に努める。

止め葉（新梢伸長が停止する部分の葉。節間
が狭まり、ほぼ同じところに2～3枚が密生）
が出そうになったら摘芯を行い（写真1）、ジ
ベレリン塗布剤を塗って、新梢の更なる伸長を
促す。また、夏季に発生して新梢伸長を阻害す
る害虫（チャノキイロアザミウマ、ニセナシサ
ビダニ、アブラムシ等）の防除も重要である。



写真1 止め葉が出たら摘芯

4 ジョイント部に届かない樹の管理

～真上に立てて先端枝を伸ばす～

定植後ジョイント部に届いていない樹では、主枝を水平方向へ誘引すると先端の新梢の
生育が緩慢になる（図2）。そのため、主枝を真上に立てて管理する。また育苗時に主枝
候補枝は2本とするが、それらはそのまま伸ばし、基部の過度な肥大を抑える。

先端枝のみを早く伸ばすために、先端以外の新梢は15cm程度で摘芯し、その後出てきた
副梢もこまめに摘芯する。摘芯した新梢部分はジョイント後における側枝の予備枝となる。

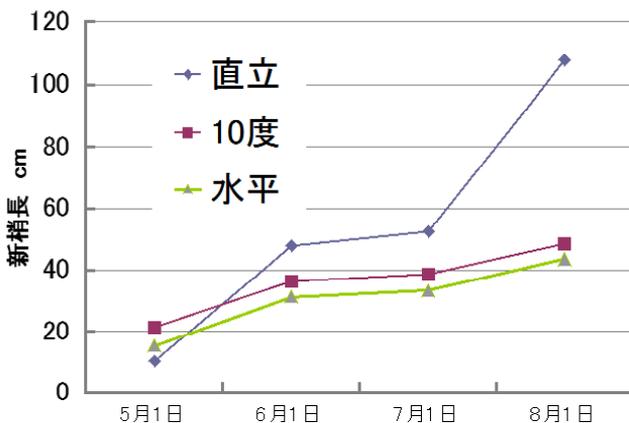


図2 定植後の主枝誘引角度と先端枝の新梢長



写真2 緑枝接ぎも方法の基本は
春の接ぎ木と同じ

5 ジョイントの時期 ～接ぎ木の時期は春だけではない～

通常の間接ぎ木時期である4月上旬は摘らいや授粉の作業と重なるため、接ぎ木のための
時間を割くことが困難である。また、主枝候補枝も固いため、誘引時に折れやすい。

6月から7月に行う「緑枝接ぎ」には、他の管理作業と競合しない、主枝候補枝が
軟らかく誘引しやすい、4月にジョイント部に少し届かなかった樹が翌春に接ぐよりも
早く接ぎ木ができるといったメリットがある。

緑枝接ぎの方法は、葉があること以外は春の接ぎ木と同じで、先端に一芽残るようにし
て（枝が褐色化し硬化した部分で切り返して）接ぎ木する。接合面以外の葉はできる限り
残す（写真2）。なお、接ぎ木部の硬化が不十分な場合や枝が細い場合は無理をせず、翌
春に接ぎ木を行うほうが良い。

翌春に接ぎ木をする場合には、前年の10月に主枝候補枝を水平近くに誘引しておく。こうすることで、接ぎ木直前の春に誘引するより枝が折れるリスクを軽減することができる。

6 まとめ

今回紹介した導入計画と管理方法を実践することにより、より早く樹体ジョイント仕立ての接ぎ木を実施することができる。一度樹形が完成すれば、作業動線の直線化による省力化とせん定作業の単純化が実現する。樹体ジョイント仕立ては導入当初のコストや手間が必要となるが、円滑な園地の若返りを図るため、是非とも導入を検討していただきたい。